

風しん抗体検査のご案内

大阪市では、赤ちゃんの先天性風しん症候群を予防するため、希望する方へ風しん抗体検査を実施します。

風しんの免疫を持たない女性が妊娠中に風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに、難聴・心疾患・白内障などの症状（先天性風しん症候群）が現れる可能性がありますので、下記対象の方には、抗体検査をお勧めします。



1 対象者

希望する検査日において大阪市民（住民登録のある方）で、次のいずれかに該当する者

- (1) 妊娠を希望する女性
- (2) 妊娠を希望する女性の配偶者（妊婦の配偶者含む）※

※昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性は対象外です。

（代わりに、全国集合契約による風しん抗体検査（クーポン券が必須）にて受検できます。詳細は大阪市ホームページでご確認ください。）

2 費用

無料

3 実施場所

取扱医療機関

4 申し込み方法

事前に電話等で直接医療機関にお申し込みください。

5 検査内容

血液検査（HI法、EIA法等）

取扱医療機関等については、
大阪市ホームページでご確認ください。

【参考】＜検査結果と考え方＞

- ・HI法 32倍以上（または、それに相当する抗体価）
⇒ 感染予防に十分な抗体があります。
- ・HI法 16倍以下（または、それに相当する抗体価）
⇒ 感染予防に十分な抗体を得るためには、**予防接種***が必要です。
特にHI法 8倍以下（または、それに相当する抗体価）の方は、
感染予防に必要な抗体がありません。



*予防接種

- ・予防接種が必要な方は「風しんワクチンの接種費用助成」の制度を利用できます。
- ・検査結果でHI法 8倍以下（または、それに相当する抗体価）の方のうち、1962（昭和37）年4月2日～1979（昭和54）年4月1日生まれの男性は、「風しんの第5期の定期接種」の制度で予防接種（無料）を受けることができます。
- ・いずれの制度も詳細は大阪市ホームページをご確認ください。

＜お問い合わせ先＞

大阪市保健所感染症対策課（感染症グループ）

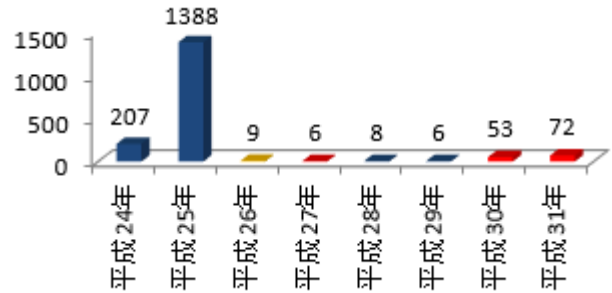
〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町 1-2-7-1000

TEL：6647-0656 FAX：6647-1029

<風しんに関するQ & A>

風しんは流行しているのですか？

平成 24 年に近畿地方及び関東地方を中心に風しんが流行し、平成 25 年には全国的に大流行しました。大阪市においても平成 25 年の風しん患者報告数は 1,388 件ありました。平成 26 年以降の発生数は落ち着きましたが、平成 30 年・31 年には再度流行し、発生数が増加しました。特に予防接種の機会のなかった 30 代～50 代の男性に多く発症していると言われており、今後も十分な注意が必要です。



風しん(三日はしか)はどんな病気？

風しんは、風しん患者のせきやくしゃみに含まれる風しんウイルスの感染によっておこる病気で、潜伏期間は14～21日間です。軽いかぜ症状ではじまり、発熱、発しん、あごから耳の後ろのリンパ節の腫れなどが主症状とされていますが、症状が出ないこともあります。



妊娠中に風しんにかかると、どんな影響がありますか？

抗体を持たない妊娠初期の妊婦が風しんウイルスに感染すると、胎児(赤ちゃん)に影響が起ることがあります。妊娠早期に感染するほど、その危険が高くなります。(妊娠4週～5週頃では50%以上の危険があり、妊娠20週以降に感染した場合、影響はほとんどないとされています。)

胎児の影響は、難聴(耳がよく聞こえない)、白内障(目のレンズが白く濁り、よく目がみえない)、心疾患(心臓の形の異常)などが起こり、これらを先天性風しん症候群(CRS)といいます。



風しんにかからないために予防することは？



風しんに対する抗体の有無(血液検査)を確認し、十分な抗体があれば風しんには感染しません。抗体がない、あるいは抗体価が低い場合(HI法16倍以下)には感染する危険があり、風しんワクチン接種を受けることにより抗体を得ることができます。(妊娠中はワクチン接種ができません。また、接種後は2か月避妊する必要がありますのでご注意ください。)妊娠している女性が、妊娠初期の抗体検査で抗体価が低い場合は、特に妊娠20週になるまでは人ごみを避け、手洗い、うがい等の感染予防対策が重要です。もし、妊婦のパートナーの風しん抗体価が低い場合は、職場等で感染し、家庭内にウイルスを持ち帰ることが心配されますので、パートナーにワクチン接種をお勧めします。